

3. 協働事業結果報告書
 (2) 江東区内「だれでもトイレ」の詳細情報の調査

平成 28 年 4 月 12 日

江 東 区 長 宛

団 体 名 特定非営利活動法人東京バリアフリースター

団 体 所 在 地 東京都江東区

代表者職・氏名 理事長 齋藤 修

協働事業結果報告書

平成 26 年度江東区協働事業提案制度採択事業の実施について、次のとおり報告します。

事業名称	江東区内「だれでもトイレ」詳細情報の調査
事業の実施期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日
実施事業の概要	江東区内の多目的トイレの調査。 ※詳細については「具体的事業内容」に記入し、ここでは要約して欄内に収まるように記入してください。
具体的事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の為のチェックリスト策定 (2015 年 6 月～7 月) C-ROW にファシリテイトを依頼し、川内教授のアドバイスを頂きながら、チェックリストを作成。 ・学校に対しての調査実施 (2015 年 7 月～12 月) 調査した用紙をデータ化 ・フォーラムを開催 (2016 年 2 月 24 日) C-ROW ファシリテイトにて報告及び講演会を実施 ・チェックリストのデータ調整 (2016 年 2 月～3 月) 調査したデータを元にデータとして利用出来るよう調整 ・入稿データの制作 (2016 年 2 月～3 月) ガジェットにてデザイン・印刷版下を制作 (2016 年 3 月) ※実施時期・従事者・参加者・実績などを具体的に記入してください。詳細を別紙として提出することも可能です。

<p>事業の成果</p> <p>※この事業で取り組もうとした課題は、どこまで達成できましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・240箇所の多目的トイレデータデータを収集 ・調査データの整備 ・印刷版下の制作
<p>協働の効果</p> <p>※区と協働したことによって、どのような効果が得られましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区管轄以外のトイレの調整・調査を江東区と実施できたこと
<p>今後の活動展開</p> <p>※この事業で取り組んだ課題に対し、貴団体は今後どのような活動を展開していきますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ等を通じて、官民がタッグを組んだ時の利点を広める。 ・江東区へ運用に関する説明会を実施したい。 ・江東区とのWEBを連携させたい
<p>自由意見</p> <p>※事業実施を通じて気づいたこと（新たな課題、実施体制、参加者の声等）を記入してください。</p>	<p>昨年度も実施させていただいた事もあり、大変スムーズに調査を実施できました。協働で鉄道会社や大型商業施設の多目的トイレも調査できました。</p> <p>○サイト（随時更新） http://www.t-bftc.org/h27t1/</p>

※ 事業の成果物（冊子等）、参加者アンケートの結果、写真など、提出できるものがある場合は添付してください。なお、ご提出いただいたものは返却できません。

江東区協働事業
「江東区の公共トイレを考える」
実施報告書

特定非営利活動法人
東京バリアフリースターセンター

目次

1. 実施概要	
(1) 開催日時	
(2) 開催場所	
(3) 参加者	
(4) 広報	
2. フォーラムの記録	
(1) 調査報告	
(2) 講演「トイレをよくみてみよう～ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」	
(3) 意見交換	

1. 実施概要

(1)開催日時

平成 28 年 2 月 14 日（日）午前 10 時～正午

当日は荒天につき 15 分繰り下げて実施した。

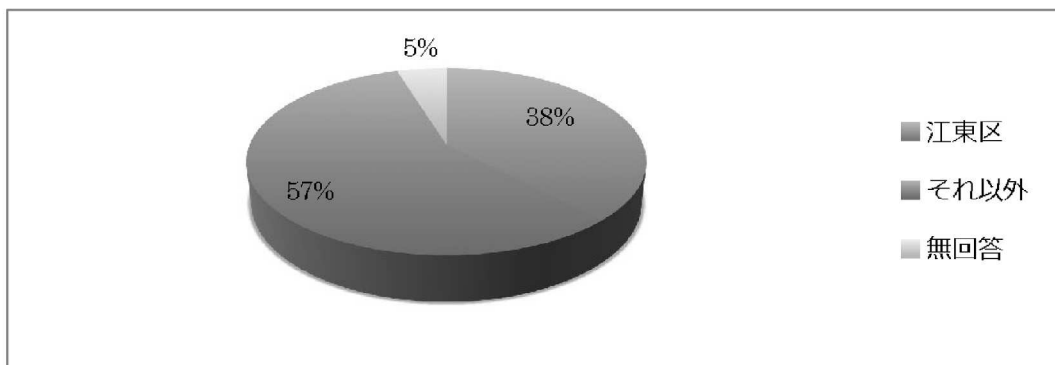
(2)開催場所

江東区文化センター 6 階 第 2・3 会議室

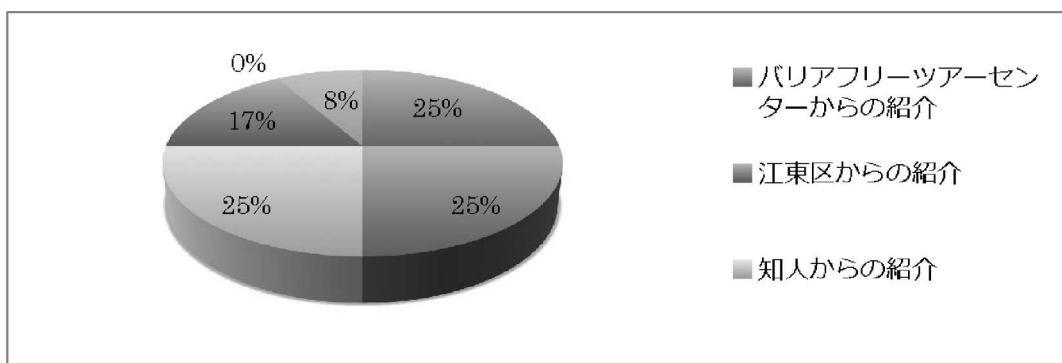
(3)参加者

21 名

▽参加者の内訳

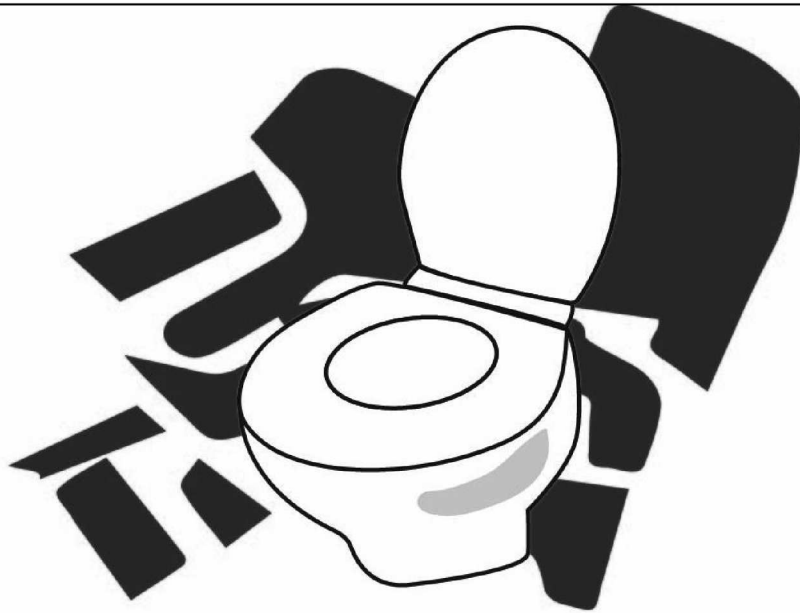


▽どうやって今日のフォーラムを知りましたか? (複数回答)



(4)広報

江東区やさしいまちづくり相談員や主催者によるメーリングリストや Facebook 等 SNS による告知で行った。



江東区協働事業報告会

東京オリンピック・パラリンピック

江東区の公共トイレを考えよう

2016 **2.14** 日 10:00-12:00
(受付開始9:45)

江東区文化センター
6階 第2・3会議室
(江東区東陽4-11-3)

事前申込み不要

参加費無料(先着60名)

10:00	開会／あいさつ
10:10	調査結果報告 NPO法人東京バリアフリースターセンター
10:30	講演「トイレをよくみてみよう ～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」 東洋大学ライフデザイン学部教授 川内美彦
11:30	意見交換
12:00	閉会

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、どんな設備のトイレがどこにあるか。その情報を障害当事者の視点で集め、発信することを、東京バリアフリースターセンターでは江東区協働事業として取り組みました。

当日は、調査報告とともに、最新のトイレ事情やトイレからみたユニバーサルデザインを専門家を招き、一緒に考えます。ふだん何気なく使っているトイレをもう一度見つめ直してみませんか？

問合せ先：NPO法人 東京バリアフリースターセンター <http://www.t-bftc.org/>

2.フォーラムの記録

(1)調査報告

特定非営利活動法人東京バリアフリースターセンター 副理事長 中村壮志

実施中の調査としては、江東区の協働事業として、江東区内の多目的トイレの調査を3月末までに行うことになっている。

東京バリアフリースターセンターについて、ご紹介すると、NPO 法人 2010 年から、歩行困難者の各種サービスの情報提供、旅行のサポートを行ってきており、2010 年総務省の ICT 事業で全国の施設におけるバリアフリーの実態調査として、ア) バリアフリー対応の現状、イ) 部屋の数、ウ) 使い勝手の調査を行ってきた。

また、バスの乗降場調査も行った。この調査では、商店街と協力し、乗降場の手配等を行った。

観光関連でいうと、訪日外国人の案内も行った。

江東区での取組としては、江東区のやさしいまちづくりの協力を行ってきており、昨年度には、江東区内にある避難所を歩行困難者が利用するとどうなるかについて、江東区協働事業として実施した。

WAM の助成金事業では、バリアフリーマップシステムの作成を構築・検証を行っており、3月までに調査をまとめることになっている。

今回の協働事業の調査の経緯としては、増加している訪日外国人数に対して、だれでもトイレの整備されているか。トイレの情報は出ているが、その情報が正しいか、更新されているかといった状況があった。そこで、正しい情報を調査して、整理することを目的に調査を行った。

調査内容としては、①外観の撮影、②アイコンの確認、③内観（手すりの高さ、配置、設備など）を調査した。

調査したデータは、デジタル化し、配布可能な PDF を作成し、だれでもダウンロードが可能な状況にする予定にしている。

調査をすると、いたずらされているもの、使用禁止となっているもの、制限がある、設備の情報が異なっているといったものがわかった。現在の進捗状況としては、246 件中 214 件が調査が終わり、データ作成 100 件程度が終了しているところである。

今後は、情報を更新していくためのチェックリスト（指標）を作成し、更新の仕方・マニュアル化は江東区と順次進めていく方針にしている。また更新にあたっては、PTA や自治会が日常的に行っているパトロールとの連携とといったことも考えたい。

作成したデータは、現状の調査したものを随時 Excel で入力し、データ化しているほかに、トイレの写真（内観・入口外観）や簡単な平面図を加え、最終的な印刷用 PDF ファイルを作成する予定にしている。

(2)講演「トイレをよくみてみよう～ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」

東洋大学ライフデザイン学部教授 川内美彦

トイレの歴史と種類

現在の車いす対応トイレは 1960 年代頃にできたといわれている。当初は、病院の入院患者が使用すると想定して作られていた。

トイレの種類としては、腰掛式便器で次のような特徴があった。

・当時はしゃがみ式和式が普通だったので、形は変わらない。

- ・壁際に L 型の手すりは日本独自（海外ではあまり見かけない）
- ・東南アジアで日本のトイレ影響を受けている国にはある。
- ・反対側に改変手すりがついているもの。跳ね上げ手すり

その当時は製品がなかったので、町工場の人やステンレスを曲げて作ったりすることもあった。その他、椅子に座ったまま、手が洗えるタイプもあったが、当日の建設省の設計水準で変更になってきた。

また、小判型便器をつくられた。重度の方で使用者がお尻を拭けない方が利用する。介助の人をする場合は作業しやすい。ただ、便座がお尻にフィットしていないので、非常に座りにくい。この形は、特殊なため、まちの中には普及しなかったが、施設でたまに見かける。



この写真では、床にはペダル式のフラッシュボタンがある。手すりに足がついているのは、かべの強度がなかったためであったが、今はこのような形式はない。

適正利用とトイレの管理

長時間の専有・専用が問題となっている。例えば、犯罪行為や犯罪行為がある。未成年者の喫煙、トイレ目的以外の利用、住み着くなどいろいろある。

不正利用対策として、カギをかけて、利用したい人が要請すれば、使わせてもらえるという管理方法ができた。カギを保管しているお店はトイレの横にお店があるわけではなく、営業時間があるため、カギがどこにあるのか分からないといった問題も起きる。またはカギの保管先について張り紙がしてあって、保管場所が書いてあるが、その張り紙が風にさらされてなくなる。保管場所が分からなくなってしまうという問題も起きている。

運動公園のトイレのカギは行政が管理することが多く、行政は土日が休み。運動公園が多く利用される土日に、管理者がいないので、土日が使用できない。

そうした場合は、金曜日に公園課にカギを借りておいたり、何時にトイレを利用するかを、事前に伝え、その時刻に合わせてトイレのカギを貸しに来てくれるというケースもある。ただこうした管理方法は、全く実用性がない。

では、カギをかけるのはやめようではないか。カギをかけないで不正使用をしないようにするためには、もっと多くの人に使ってもらわなければならないという考えのもと、1990年初頭頃から東京都はだれでもトイレという名前をつけて始めた。

「どなたでもご利用ください」だれでもトイレというなら、子育ての方が使う設備もだれでもトイレに入れようではないか。

そして、子育てをする人が、ここは使えるぞと、使うようになった。ベビーカーだけでなく、小さな手を引くような子供も使うようになった。親子連れ、家族連れでも利用が増えるようになった。

子供の成長の中で、家の中ではなくて、外に出てトイレを使うようになるということは親から離れなくてはいけない。ある意味で社会適合訓練としては、とてもいい訓練だと思うのですが、そういうことも必要なくなった。あの大きな部屋に入れば、いつまでたっても家族のトイレになる。

あの大きなトイレは子供にとっては、紙はいくらでも引っ張りだせるし、水で遊べるし、遊び場になってしまい、滞在も長くなるということが起きている。

車いすの方々からはもともと私達が運動してつくってきたのに、使えないじゃないか。という不満の声がある。

もう一回カギをかけるべきではないか。使いたい人だけカギを配るべきだという話が再びでてきている。問題点は明らかで、インバウンドの話が調査報告

でも出ましたが、カギを貰える人はいいが、もらえない人、例えば、海外から来た人は使えるトイレがない。つまり問題は解決できない。

ヨーロッパなどのイギリス・ロンドンの車いすの公衆トイレはカギがかかっている。日本人はできるだけものを小さくするが、いかにもイギリスという考えで、大きいカギを使用している。

また、ある観光地のトイレでは、たまたま公園の周りを掃除している人に聞くと、「あるよ」といってカギを貸してもらった。

限定した利用者にもみ、使わせようしているシステムの国もある。

日本だったら、大きな通りの新しい整備されたオフィスビルに、ガードマンに「トイレを使わせてください」と言えば、使わせてもらえる。一方、

アメリカでは治安が悪いので、オフィスビルの中のトイレも、セキュリティの奥、なのにカギがかかっていることもある。オフィスの入口には、トイレのカギがあり、そのカギをもってトイレに行くことができている。

そう考えると、治安がいいことはありがたいことだと思っている。

カギをかけるべきだ、本当に使いたい人にだけ使わせるという意見に対しては、日本ではまだ答えが出ていない。

障害者運動では、社会から排除され続けてきた障害者が「それはおかしいんじゃないか」と、自分たちが使える設備をつくってきた。今度は排除する側に回ろうといってるわけです。その自己矛盾についてなにも答えていない。それはおかしいことだと思う。

だれでもトイレのニーズ

理論立てて、なぜ広いトイレが好まれるのかを調べてみよう。ベビーカーを押す母親が普通のトイレでは使えない。自分が用を足すとき、ベビーカーごとトイレに入れられないが、置くわけにはいかない。ベビーカーが中に入れないので、ベビーカーを折りたたんで、子供を抱っこして中に入ると非常に狭苦しいことになる。

ベビーカーを置いておくと盗まれるし、中に入れると狭い。子供は抱っこする以外にないし、子供も床には置けない。さらに、現在は背負い紐ではないので、だっこひもだとすると手がふさがって大変。和式トイレだと、余計に抱っこ型では大変になるという問題がある。

広いトイレが人気なのは、子供を外に置いて行けないという安全面の心配がある。広いトイレの方がベビーカーの取り回しも便利ということもある。

車いすを使う人だけではなく、そういう人たちのニーズを取り入れないといけない。

ニーズの整理

高齢者は、腰掛け式便器と手すりが必要。ベビーカーを使用する人は、広い方がいい。乳幼児と一緒にいる人も広い方がいい。

高齢者については、腰掛け式便器と手すりが必要というのは、一般トイレにつければいい。

ベビーカーについては、あんなに大きなブースを設ける必要がない。一般ブースをちょっと広くして、オムツ替え台を設置すればよい。

乳幼児については、一般ブースを広くする、おむつ替え台と子供用の椅子を置くことで対応できる。

車いす用の大きなブースと中間サイズのトイレが必要ということになる。

盲導犬を連れている人は、普通のブースは小さすぎるし、車いす用だと大きすぎて空間が把握しづらいので、やや広い空間が必要。

オムツ替え台は棚とかあればいいので、車いす対応の大きなブースではなくて大丈夫。

子育てから何からなにまで、車いす対応トイレに集中されてしまった。

トイレの機能分散

大人用ベッド、たぶん日本にしかないではないと思う。乳幼児のベッド、乳幼児用の椅子。子供用トイレにある子供用の手洗いと小便器。日本には子供用のトイレはいっぱいある。

着替え台、チェンジングボードも海外ではあまり見ません。もともとが女性のストッキングが伝線した場合、トイレの床が汚いので、足が置けない。着替え台をパタンと広げて、そこで足を置いて着替えるようなことだった。

また、子供のパンツタイプのおむつを着替える台として使うことが多く、子供を台に乗せてお父さんお母さんがしゃがんで使うと安全に利用できる。

高齢の方もパンツタイプのおむつを使っている方が多いので、着替えるときに使えるので重宝している。

オストメイト用の汚物流し、2000年の交通バリアフリー法のガイドラインから出てきたものがあり、お腹に十文字のマークをつけたもの。国際的にも使えるマークをつくらうと、色々考えた。最終的には十文字になったが、当初は十文字はまずいんじゃないか。国際的に使おうとすると、イスラム教には使ってもらえないなど、すったもんだしましたが最終的には十文字になった。

いろいろな機能を車いす対応トイレに集めるのではなく、一般トイレの中に腰掛け用をつける、手すりを入れる。子供用の設備をつけるなど、機能を分散したらどうか。

ブースには色んな設備がつくので、このブースの外側に何がありますよ、という機能を表示するものも必要になる。

羽田空港の国際線ターミナル、中部空港の国際線ターミナル、新千歳空港の国際線ターミナルはトイレとしてはきわめて先進的なトイレで、手動の車いすなら大体は入れる広さになっている。これは、旅行バッグを持っている人に対応して入れるようにしてある。トイレの個室の中におむつ替え台もある。

車いす使用者には2種類のニーズがあることがわかってきました。

①車いす使用者も男女別のトイレを使いたい人、②異性介助がいるので中性トイレを使いたい人。

介助者の性別の問題がある。2つのニーズを叶えられないかなと考えた。

車いすを使って、男女別のトイレを使いたい人は1人で用が足せる人。こうした人には、一般便房を少し大きくした簡易型多機能便房を性別トイレの中にやや大きめのブースをつくれればよい。

車いすで中性トイレを希望する人は、異性介助があるので、わりと重度の人が多いため、現在の車いす用トイレで十分となる。

一般ブースの面積を大きくすることで解決することができる。

(図面1の解説)

男女トイレ、左に男子トイレ、右に女子トイレ、入口に中性トイレというプラン。簡易型多機能便房を奥に設置、既存のトイレを工事せずに、簡易型多機能便房を増やすためには、一番奥のブースを広めにするのが一番いい。

男性用には小便器と洗面台に手すり付きをつける。

(図面2の解説)

大きいトイレと中性トイレが2つあり、簡易型多機能便房がある。おむつ替え台と子供用小便器を男性トイレ、女性トイレに設置。新千歳空港の最終に近い設計になっている。

車いす対応トイレを右利き用、左利き用真ん中に設置。女性用にはパウダーコーナー。トイレの横に授乳室をつけるのはどうかという意見もあるが、乳幼児は飲むとすぐ排せつがあるので、手を洗ったりするのにトイレの横に設置してある。

トイレ利用は綱渡り

実はトイレ利用は綱渡り。まずトイレに行きたい。トイレを探して、トイレに行くという行為を行う。トイレに行きたいと思ってから、トイレに行くまで我慢ができることが大前提にある。

海外ではよくあるが、知らない場所だとトイレの在処がわからない。今までの経験や勘が頼り。